

※本文内の()内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎2段階選抜実施状況

□第1段階選抜不合格者数は、前期はやや減少、後期は減少
大学別では、前期は東京大、中期・後期は大阪公立大が最多

〔第1段階選抜実施状況(不合格者数)〕

	前期				中期・後期				合計			
	2026年度	2025年度	増減数	指数	2026年度	2025年度	増減数	指数	2026年度	2025年度	増減数	指数
国立大	3,547	3,444	+103	103	2,198	3,234	-1,036	68	5,745	6,678	-933	86
公立大	588	1,015	-427	58	1,279	825	+454	155	1,867	1,840	+27	101
合計	4,135	4,459	-324	93	3,477	4,059	-582	86	7,612	8,518	-906	89

〔第1段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学〕

順位	前期				中期・後期			
	2026年度		2025年度		2026年度		2025年度	
1	東京大	835	東京大	893	大阪公立大	721	一橋大	626
2	一橋大	378	東京都立大	772	奈良県立医科大	446	山梨大	439
3	東京都立大	357	東京科学大	429	山梨大	407	秋田大	380
4	東京科学大	342	一橋大	258	一橋大	333	東北大	375
5	福井大	228	富山大	212	東北大	281	山口大	295
6	大阪大	191	愛媛大	186	千葉大	197	東京都立大	276
7	千葉大	158	群馬大	141	徳島大	194	奈良県立医科大	238
8	愛媛大	141	滋賀医科大	124	福井大	156	大阪公立大	226
9	京都大	136	熊本大	121	九州大	135	琉球大	211
10	大分大	136	千葉大	113	鹿児島大	119	鹿児島大	183
全体	4,135		4,459		3,477		4,059	

2段階選抜における第1段階選抜不合格者数は、前期は 324 人(93)のやや減少、中期・後期は 582 人(86)の減少でした。全体では 906 人(89)の減少です。第1段階選抜を予告している難関大や、医学部医学科での志願者数減少を反映した結果となりました。

前期では、国立大は 103 人(103)のやや増加です。前期で不合格者数最多の東京大は、2年連続全科類で実施されました。公立大は 427 人(58)の大幅減少です。特に、東京都立大は 415 人(46)、和歌山県立医科大は 60 人(25)の大幅減少でした。一方で、福島県立医科大は 90 人(850)の大幅増加でした。

なお、前期日程で、第1段階選抜を基準点で実施する募集単位は、大阪公立大・医(医)を除いていずれも志願者数が減少しました(表 1)。前年度の反動に加え、共通テストの平均点ダウンの影響が大きかったことが推測されます。

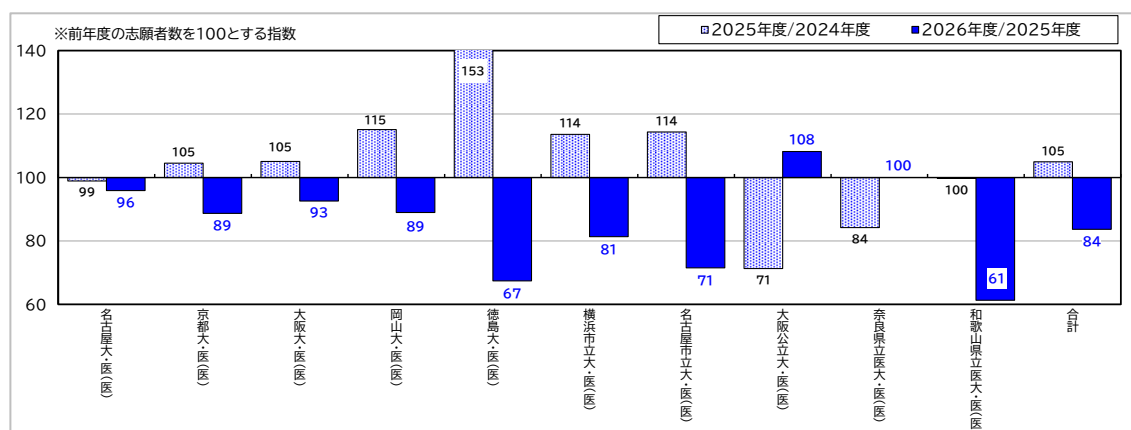


図 1 第1段階選抜を基準点で実施する募集単位の志願者数増減<前期>

後期では、国立大は 1,036 人(68)の大幅減少です。特に、秋田大(8)は 351 人、一橋大(53)は 293 人のいずれも大幅減少でした。また、琉球大は前年度の不合格者数は 200 人以上でしたが、2026 年度入試では志願者数が約 60%減少、第 1 段階選抜も実施されませんでした。一方で、前年度第1段階選抜を実施しなかった九州大では、経済(経済・経営)で予告倍率を超えたため、135 人が不合格となりました。

中期・後期で実施の公立大は、454 人(155)の大幅増加でした。第1段階選抜を予告している 13 大学のうち、実施したのは前年度と同じ東京都立大、福井県立大、大阪公立大、奈良県立医科大の 4 大学のみでした。大阪公立大は法<後>、工<中>で実施され 495 人(319)、奈良県立医科大も 208 人(187)のいずれも大幅増加でした。一方で、東京都立大は 184 人(33)、福井県立大は 65 人(24)のいずれも大幅減少でした。